

秋風受け 銀輪快走

ツール・ド・のと開幕

全国の自転車愛好者が県立自転車競技場に集結し、午前8時半の川口克則内灘町長の号砲でスタートを切った。出場者は潮風を受けながら海岸沿いを疾走し、



一斉にスタートを切り、力強くペダルをこぐ出場者—13日午前8時40分、内灘町の石川県立自転車競技場

801人、内灘を出発

初日のゴールとなる120・7km先の輪島市マリントウに向けて能登半島を北上した。

今年大会には、34都府県から83歳の1090人がエントリーした。初日は、3日間で全長407・4kmを走破するチャンピオンコ

ースに444人、内灘—輪島を走る1日コースに357人が参加した。

開会式では、吉田仁北國新聞社営業局長があいさつ、川口町長、緩舘潔県自転車競技連盟会長が出場者を激励した。

14日は輪島市から珠洲市

などを回って七尾市の能登島を目指すコース、15日は能登島から氷見市、高岡市などを経由して県立自転車競技場に戻るコースで行われる。

「第26回ツール・ド・のと400〜能登半島一周サイバイバル・サイクル2014」(同実行委、北國新聞社主催、石川県自転車競技連盟共催)は13日、内灘町の県立自転車競技場を発着点に3日間の日程で開幕した。爽やかな秋空の下、県内外から参加した801人が初日のゴールとなる輪島市を目指し、能登路に銀輪を運ねた。

石破茂地域創生相13日、金沢市内で講演。地方の活性化に向けてある国の機関などへの多岐を推し進める。

